



20 年前に、ミレニウム・ベビーとして、また、一番若い 20 世紀人として、わが孫・ゆう君は誕生しました。3 人兄弟の 3 番目でしたが、最初の孫・こう君が産み月を待たずに、天に召されたため、実際は次男として育ちました。

ゆう君は二十歳となり、今年成人式を迎えるはずでした。新型コロナのパンデミックが生じ、感染は治まりません。成人式は「3密」を避けて各地で中止、延期となりました。ゆう君は友人たちと相談して、参加を見合わせたそうです。

式はなくても、私たち家族は全員でゆう君の成人を喜び、お祝いしています。神様から命を与えられたこと、今まで守られて成長してきたことを心から感謝しています。

孫はとても可愛いものです。でもどんなに可愛くても、ワン・クッション置いて、というか、距離を置いて、眺めるような感じで接してきました。それでも、近所に住んでいたおかげで、私は可愛い盛りの孫と遊ぶチャンスをたっぷり与えられたと感謝しています。

私が積極的にかかわったことは、週に一回英語を教えるということでした。その時、ゆう君は 3 歳、上の孫のとも君は 5 歳でした。アプリコット、プログレス、フォニックス等の教材を組み合わせ、テープ、カード、絵本等の道具を用いて、耳と目を使うことから始め、口へと遊びを展開していきました。二人は興味を持って、楽しんでくれましたが、ゆう君は、兄にはできても、自分が思うようにできない時には、立ち上がって、別室に泣きに行きました。その都度、涙を拭きながらもテーブルに戻ってくるのを待って、再開したものでした。本当に可愛らしく、健気で、忍耐強い態度でした。英語が終わると、3 人でポケモンカード、ブロック等で遊びました。私たちはたいがいバトルが根底にあり、勝敗を伴う遊びが好きでした。兄は勤が働く、閃きタイプ。そのため失敗が多々あります。ゆう君はそういう兄をいつもじっと窺うように見つめながら、「お兄ちゃんに勝てるとは思わないけど、絶対負けたくない」と私に言ったのです。この言葉を聞いて、弟の気持ちはこれなんだ！と実感しました。

ゆう君は控え目で、注意深い、忍耐強い特質をおのずと養っていきました。また、形、色彩のコーデネイト等、身だしなみにも気を配り、素敵な若者に見えます。現在は、ネットでのリモート授業という想像したこともない現実を受け入れて大学生生活を送っています。辛いことではしょうが、それでも勉強は熱心に取り組んでいるとのこと。一日も早く、自由で、のびのびと活動できる日がきますようにと、私は願っています。土の器にすぎない私たちであっても、神は輝く光としてキリストを私たちの心の中に宝として入れて下さいました。知恵と知識の宝はすべて、キリストの内に隠れています (コロサイ 2:3) の御言葉を成人となったゆう君に贈ります。



パンデミックの中で成人となられた全ての若者の上に幸多かれと心よりお祈りいたします。